

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0570106468		
法人名	社会福祉法人 友遊会		
事業所名	青竜		
所在地	秋田市下北手松崎字岩瀬122		
自己評価作成日	平成28年2月15日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

介護保険の理念に基づき、家庭的な環境のもと、日常生活における援助を行う事により、健康で明るく豊かな生活を支援する。また、業務に流されず、本人決定に時間をかけ、決定することを大事に思い、本人、そのご家族との時間の共有に努める。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo-service.pref.akita.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人 秋田県社会福祉士会		
所在地	秋田市旭北栄町1番5号		
訪問調査日	平成28年3月15日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・職員と共に考えた理念(喜怒哀楽)を実践し、利用者のケアに当たっている。地域との関係作りにも意識的に取り組まれ、地域の中で生活できるように努めている。建物は2階建て。利用者の状態に合わせて、エレベーターが使用できるようになっている為、2階での生活にも不安を与えないように配慮されている。法人が大きい事で職員の異動等もあるが、管理者と職員との信頼関係によって職員も仕事を楽しくしている様子が印象的である。利用者の状態が少しずつ落ちてきている事を受けて、重度化に対する学習会を行う等されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関前に分かり易く運営理念を掲げ、職員間の相互理解のもとにケアが生かされている。	理念に対して職員のみならず利用者・家族にも理解が得られてきているとの事。職員の入れ替わりもあるが、理念を共有して実践に結び付けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	週1ボランティアの来訪や、近くの幼稚園との交流、地区の敬老会への参加、地元の方に苦情解決を依頼等、地域に根ざしたホーム作りに努めている。	幼稚園や地域の敬老会への参加等の他に、地域の方の自宅へ訪問する等の交流も行われている。また、一緒に食事をする等して交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	同上		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在、入居者やご家族の高齢化も有り、会議に参加出来ない状態では有るが、会議内容を随時お手紙等で報告、面会時にご意見をお聴きしながらサービス提供に生かしている。	運営推進会議は概ね2か月に1回程度開催されている。開催曜日を変えたりして、家族の参加を促してはいるが、参加につながない状況にある。利用者の方には無理のない時間のみではあるが、参加を働きかけている。	参加者が固定化されている事から、様々な方を会議へ呼びかけて、多様な意見を取り入れられる事を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	不明な点が有れば、随時、連絡しながら、入居者、ご家族へ対応している。	事業所の体制や介護保険制度等について、随時連絡を入れて確認をしたり、事業所の待機者数等を定期的に連絡している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月1回のミーティング、研修会、勉強会開催し、職員間共通理解のもと、実践している。	身体拘束の事例はない。事業所の他、法人としても学習会を通じて職員教育を行う等している。また、毎月ミーティングにて個別の対応についても検討し、拘束のない生活を支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	同上		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	同上		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者だけではなく、ケアマネ、スタッフからもご家族へ意見を伺い、皆での対応に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先に意見箱を設置、来訪時等に要望、意見を伺い、日常的にスタッフ間で話し合う様にしている。	意見箱を設置し意見等を求めているが、なかなか投函がない為、面会時や電話連絡等の際に意見を伺うよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的にマンツーマンの時間を設け、ミーティング等で掲げ、話し合い、決定した意見を代表者へ挙げている。	個別に時間を設けて話しを聞く時間を設けている。事業所で改善等を図りきれない事案については、法人へ働きかける事で、職員の意見を反映させるように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人及び関連法人内に話し合った意見、内容を上げながら、更に、意見を聞き、よりよい現場の環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員相互の親睦会を設け、和室の奥に休憩スペースを確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同上		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	個人ケアを軸に、個々の入居者と向き合い、一人ひとりの人格を尊重したケアを提供している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	定期的に電話連絡、お手紙等で近況報告し、随時、要望を聞いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自然な会話等の関わりの中で、さりげなく必要な支援を行う様に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の来訪時に、積極的にコミュニケーションを図り、意見や要望等の聴取に努め、今の気持ちを共有するよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の生活歴を把握し、統一した様式を用いて整理し、ケアに活かしている。	利用者となじみのある人や地域等との関係性が途絶えないように努めている。また、利用者のみならず、離れた家族への支援も行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者が自然に感情表現しやすい様な対応をしながら、時折、入居者間にスタッフが入り、支えあえる様な雰囲気作りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	定期的に電話連絡、お手紙等で近況報告し、相談、支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族にも協力して頂きながら入居者の生活歴を把握した上で、向き合い、一人ひとりの人格を尊重したケアを行っている。	日常の関わりの中で小さな意向等を汲み取り、日々のケアに反映させている。また、自分の思いを十分に伝えられない方については、これまでの生活歴や家族からの話伺いながら、その人が望むであろう事を考えて支援にあたっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	同上		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	同上		
26	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	把握した入居者の生活歴を統一した様式を用いて整理し、月1回のカンファレンスを行い、意見交換している。	月に1回、職員でカンファレンスを行いながら、介護計画の作成を行っている。家族へも半年に1回の参加を促している。受診時等に主治医等からの意見も伺い、介護計画の作成に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	同上		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の公園への散歩など、入居者の希望に合わせて実施出来る様に配慮している。		
30	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療関係の主治医との連携を密にしており、ほとんどの入居者が本人・家族の同意のもとに協力医療機関を受診している。他科の医療関係を受診される場合も、受診時の状況の把握に努めている。	協力医療機関の他、これまでかかっていた医療機関への受診も継続している。また、受診時は職員が同行する為、医療機関との連携も密に行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同上		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者だけではなく、ケアマネ、スタッフからご家族へ意見を伺い、皆での対応に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	管理者が窓口になり、主治医、看護師、ソーシャルワーカー共に意見交換・連絡を密にしながら最善、最良のケアを提供するよう、努めている。	看取りは行っていない。入所時に事業所として対応できる状況を説明し、予後の不安の解消に努めている。事業所として対応できない状態に至る場合には、法人内の事業所や各種関係機関との連携を持ちながら、生活が途切れないように配慮している。	重度化した利用者への対応について、学習会を持ちながら対応できるように努めているとの事で、今後も学習会等を通じて重度化した利用者に対応できるように努めてほしい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日常的に緊変時、事故を想定・イメージしながら業務へ臨む様に心掛け、定期的に勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練等を実施する際は、電話連絡、お手紙等でお知らせし、参加を求めているが実際の参加人数は少数である。	日中の災害発生時には隣接した事業所からの応援もある。有事の際には、法人としての協力体制もとれており、食糧等の備蓄もある。	夜間帯は隣接事業所に職員がいない為協力を仰げない事から、夜間の災害時における地域等に対して協力体制を得られるように働きかけてほしい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	それぞれの職員が、一人ひとりの入居者に対し、優しく穏やかに、温かく接している。	利用者とのかかわりの中で、よくない慣れが生じやすくなることから、言葉使い等について随時注意しているとの事だったが、そうした事からも声がけ等は適切であった。また、排泄や入浴時の羞恥心へも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者と向き合い、自己決定に時間を掛け、その時間を大事にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	同上		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	自然な会話等の関わりの中で、さりげなく必要な支援を行う様に努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片付けなどの活動を通じて、入居者それぞれが楽しみごとや出番等を見出せる様に、支援に努めている。	調理や片づけ等利用者が参加できる部分については、役割を持っていただきながら食事を楽しまれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	系列施設の管理栄養士が献立を立てており、入居者それぞれの摂取量や栄養バランス等の把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	日頃から口腔健康体操を行っている。また、食後の声掛けや必要な方への支援を行う事により、口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターン等を把握し、個人に合った支援に努めている。	利用者の排泄パターンの把握に努め、トイレでの排泄を促している。入所後オムツが外れた利用者も多く見られている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分をこまめに提供、繊維の多い食品をおやつにも取り入れ、なるべく、下剤を服用しない様に、努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	健康状態を把握し、希望日や時間に、広い浴室で安心・安全にくつろいで入浴が出来る様に努めている。	毎日入浴できる体制をとっている(10時過ぎから17時頃まで)。本人が希望する日や時間に入浴できている。入浴したがない方については、本人の気に入っている職員が出来るだけ対応するように努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間不眠な入居者には、職員が傍について、お茶等を飲んで頂く等、個別の対応をしている。また、必要時には、医師と相談出来る体制が出来ている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者それぞれの処方薬内容について、個々の職員が十分に理解しながら支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	買い物や近隣の公園への散歩等、それぞれの入居者がホーム内にとどまる事なく、積極的に外出出来る様に支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	同上	希望に沿って随時外出に行けるようにしている。特に買い物についての意向が多く、お菓子の買い物を楽しむことが多い。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	馴染みのある財布に現金を入れて持参している方もいる。また、外出、買い物の際には、入居者自身に精算して頂き、金銭感覚の持続に努め、支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	日常的に行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明や採光等は自然であり、入居者が落ち着いて過ごせる様に配慮している。また、馴染みやすいデザインの掛け時計が居室・居間等の共有空間に設置、他、余暇活動でカレンダー作りを行い、飾っている。	不快なおい等はなく、家庭的な雰囲気が感じられる空間となっている。地域の保育園児が作ってくれた物を居室前に飾り付ける等して、利用者が楽しんで過ごせるように配慮している。事業所内は外からの光も取り入れて適度に明るくなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	同上		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある家具・寝具・衣類等を持参して頂き、より生活歴に近い空間を提供、支援している。	利用者が使い慣れた家具等を持ち込んで、自宅に近い空間を作り、居心地良く過ごせるよう配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	配置、配色等を皆に聞き、意見を取り入れながら環境整備し、柔軟に対応している。		